

グリーンスクール/ Green School

バリ島のデンパサールから車で約20分、シバンカジョ村のジャングルの中にある、奇跡の学校と言われているグリーンスクール。世界中から子供達が集まるこのインターナショナルスクールは、サステナビリティを基軸にした、イノベーション教育の最先端。バンブー建築で建てられたキャンパスは、プラスチックフリー、生ごみはすべてコンポスト化され、電力や飲料水や食事などを自給している。また、学生達の発案で様々なイノベティブなプロジェクトが進行しており、取り上げるメディアも数多く、毎日見学者がたえない世界中で注目されている学校。



グリーンスクールにおける SDGs取り組み イノベティブプロジェクト

グリーンスクールバリ（ウブド）で大切にしていることの一つに「持続可能な社会を担うリーダー育成」という方針があります。子どもたちの中に自ら備わっているその力を伸ばしていくため、実生活における課題や問題の解決方法を探るため、子どもたち自身でプロジェクトを立てて取り組むことを学びの中に位置づけています。

実際に2019年6月、日本人女性で初めてバリのグリーンスクールを卒業した露木志奈(つゆきしいな)という方がいる。学内事業としてオーガニックコスメブランド“DARI BALI”を立ち上げ2018年12月にはポーランドで開催された『第24回気候変動枠組条約締約国会議（COP24）』の一部にあたる『COY（Conference of Youth）』に出席。現在は慶應義塾大学環境情報学部に通いながら会社の立ち上げを目指し、ナチュラルコスメワークショップの開催や商品開発を行っている。



バイオバス工場

2015年に高校三年生のグリーンスクール生徒が、卒業プロジェクトとして取り組んだのがバイオバスの発端。提携する周辺のレストランから使用済みの調理油を回収し、バイオディーゼルへと加工し、それを燃料として走るディーゼル車がバイオバスです。近辺に住む数百の家庭が毎日マイカーで送り迎えをするのではなく、スクールバスを使用することによって不要な消費・汚染を防ぎ、かつその燃料が循環型という、まさにサステナブルな取り組みです。



Kembali リサイクル施設見学

グリーンスクール内に有るKembaliリサイクル施設にてリサイクルに関する説明（ノウハウ）を受けます。校内や生徒の家庭から出るあらゆるリサイクル・リユース可能なものを回収し、資源として業者に売れるものを販売し、「ゴミゼロ」を目指す施設です。最近ではリサイクルやリユースの域を超えて、空気汚染や土壌汚染についても学べるようになっております。



パーマカルチャー農業園見学

グリーンスクール併設のKulKul-FarmにてPermanentとAgricultureを合わせたPermaculture（永続する農業）農業園の見学。グリーンスクールではこの農園で栽培されたオーガニックフードを給食として使い自給自足に繋がっている。

【グリーンスクールでの学習】

グリーンスクールでは、世界各国ならびに現地インドネシアの生徒たちに、朝から夕方までじっくりと学べる包括的な英語学習環境を提供しています。同校では教室における統合的な言語スキル学習に加え、大自然とのつながり、様々な学習機会、実用的なスキル構築、屋外でのアドベンチャーなどの体験的学習要素を取り入れています。英語学習を希望する生徒たちに、インドネシア・バリ島ならではの豊かな文化と大きな自然環境、そして国際的に高い評価を得ているグリーンスクールバリのコミュニティの一員として、フルタイムで学習できる機会を提供しています。

グリーンスクールは、グリーンスクールのコミュニティインテグレーションプログラムであるKul Kul Connectionをサポートしています。このプログラムでは、世界各国からの生徒たちおよびその家族で構成されるグリーンスクールバリのインターナショナルコミュニティと、地元Sibangkajaのコミュニティとをつなぐプログラムで、このプログラムに参加する地元生徒たちは、家の近所の川や海岸、海などから5キロの資源ゴミを持参し、1期分の授業料として支払っています。

グリーンスクールのすべての利益は、グリーンスクールバリのKul Kul Connectionプログラムに使われます。インドネシア・バリ島のジャングルの中で、自然を大事にした竹で作られた壁のない美しい教室で生徒たちは学習します。



GREEN SCHOOLとは？

2008年9月にハーディ夫妻により

自然の中で子供の自主性や創造力を育み次世代のリーダーを輩出する目的で開校された学校。

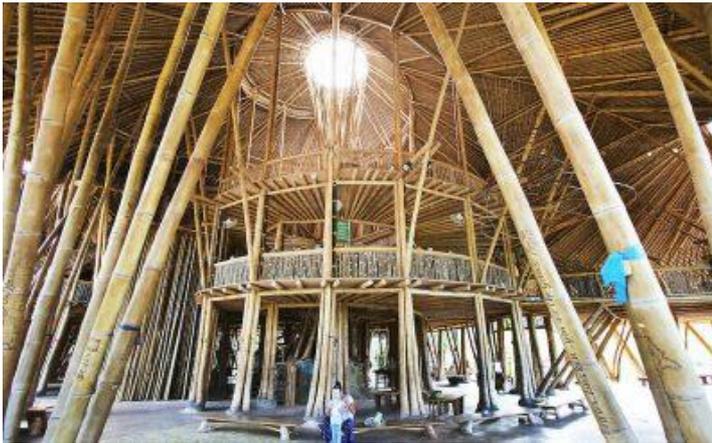
校舎は環境負荷の少ない材質（竹など）で建てられており、再生可能なエネルギーで自給自足の学校を実現している。

グリーンスクールの建築は？

すべてが竹でできている建築物！

グリーンスクールは、環境問題にも配慮しており、教室は、竹やバリの伝統的な泥壁など環境に配慮した資材で建てられ、運動施設にも可能な限り環境負荷の低いものを使用し、キャンパス内の建物は水力、バイオディーゼルなど、再生可能なエネルギーで自給自足をしています。

すべてが竹で出来ている建築物はひとつではなく、「自然と人との共生」を柱としたひとつのコミュニティとしての村となっており、そのコミュニティは「会社」「学校」「図書館」「食堂」「寄宿舍」「ゲストハウス」からなっています。また、広大なキャンパスには池、野菜畑、庭園があり、米、野菜、果物からサトウキビ、チョコレートまで栽培され、魚や家畜が飼育されています。



グリーンスクールの周辺は？

子供たちの学び場はここだけではなく、校舎のまわりの自然豊かな場所にもあります。そこでは、地元農民によって、米、茄子、トマト、豆、チリ、きゅうり、ホウレンソウ、バジル、レタス、パイナップル、バナナ、ココナッツ、パパイヤ、カカオなど、たくさんの種類のオーガニック野菜、穀物が栽培されており、子供たちは大自然に囲まれ田植えや、種まき、収穫を行うことですべてが循環する仕組みを学ぶことができます。

ユニークな竹の校舎

グリーンスクールでは、成長がはやく環境に優しいという理由から、ほとんど全ての建造物に竹が使われています。校舎だけではなく、机や椅子、バスケットゴールや遊具、川に架けられた橋も竹で作られています。

環境に優しいだけではなく、デザインもクオリティーもかなりハイレベル。流れる曲線のユニークで美しいデザインに世界中から注目が集まり、見学者が後をたちません。

この竹でできた教室は、壁も窓も扉もなく、自由でオープンな雰囲気です。もちろんエアコンもありません。

教室にある竹の机は、円形や扇形など、色々な形をしています。創始者のジョン・ハーディー氏は、固定概念にとらわれない、四角ではない形の机にこだわったのです。

机の並べ方もとてもユニーク。中心を向いて丸く並べたり、いくつかのグループごとに丸く並べて座ったり。黒板の方をまっすぐ向いて整列して机を並べて正しい姿勢で授業を受けるという日本のスタイルとは遠くかけ離れています！こんな教室で学んでいる子供達は、固定概念にとらわれることがなく、かなりクリエイティブになることでしょう。



地球にやさしいコンポストイレ

トイレも用途事に分かれており、左が小、右が大となっています。
のコンポストイレによって集められた糞は、バイオガスとして、尿やその他の雑排水は、バイオジオフィルター（植物や微生物など自然の力で水を浄化すること）を通して、土に還り、畑で使われるそうです。



飲料水

飲料水は、井戸水をくみ上げ、バイオシステムという業者の装置を通して不純物を除去し、環境負荷の低い形でキレイな水を供給、循環する仕組みを利用しています。。

自給エネルギー

校内で使われている電力の約80%は太陽光発電、20%は川の水を利用した水力発電によって供給されています。その太陽光発電パネルや水力発電のための水車にも竹が利用されています。

教室にはそもそも照明がほとんどなく、外の光を上手く取り入れて照明がわりにしていますので、子供達は、自然と電気のありがたさを身につけていきます。

また、牛と人間の糞尿を使ったバイオガスシステムによる電力もあり、お湯や調理をするためのガスのかわりに、竹を加工した際に廃材となるチップを利用しています。



泥プール

グリーンスクールの人気の授業の1つに、泥プールで行われる泥んこレスリングと川のプールで遊ぶ水遊びがあります。泥 = 汚いというイメージではなく、泥 = 楽しいという意識が自然と身に付いていきます。そして、もう1つのプールは、川のプール。敷地内を流れるアユン川を利用して、水遊びも行われています。プールでしか泳いだ事のない子供達は衝撃的です。

オーガニックカフェ

グリーンスクールの施設内にある数件のカフェがは、校内で生徒達が育てた野菜や果物を使った学校直営のお店で、どれもオーガニックで美味しいメニューがたくさん。

